

## 令和7年第10回京田辺市教育委員会定例会会議録

日時 令和7年10月10日（金）午前10時00分 開会  
午前11時20分 閉会  
場所 京田辺市役所3階305会議室

### 会議日程

日程第1	教育行政報告	
日程第2	報告第21号	令和8年度京田辺市立幼稚園・こども園（幼稚園枠）の募集結果について
日程第3	議案第44号	令和7年度京田辺市教育委員会表彰について
日程第4	協議	第2期京田辺市立幼稚園・保育所再編整備計画（素案）について

### 出席者

教育長	山岡	弘高
委員（教育長職務代理者）	藤井	直
委員	上村	真代
委員	伊東	明子
委員	塘	利枝子

#### （事務局出席職員）

教育部長	櫛田	浩子
教育指導監	片山	義弘
教育部副部長	古谷	隆之
教育総務室担当課長	平岡	孝章
こども・学校サポート室総括指導主事	南部	智彦
こども・学校サポート室統括主幹	本田	扶佐子
学校教育課長	田原	暁
学校給食課長	西村	明
社会教育課長	早田	陽輔
社会教育課担当課長	七五三	和広
こども未来部長	河本	佐和子
こども未来部副部長	内野	文彦
保育幼稚園課長	藤田	大典

(事務局書記職員氏名)

教育総務室総務係長

志場 吉洋

教育総務室再任用主査

鈴木 勝浩

## 会議の要旨

### ○開会宣言

教育長が開会の宣言をした。

### ○日程第1 教育行政報告

#### [報告]

前回の会議以降の教育行政関係行事及び議会審議状況について資料配付により報告。

#### [質疑]

(藤井委員)

大住中学校の駐輪場整備について、安心安全は学校にとって一番大事なところである。学校や警察との連携においては教育委員会も関与し、生徒に対して自らの命を守るということも含め、ぜひ強い安全教育・指導をお願いしたい。

(事務局)

ご指摘のとおり、生徒への安全教育は非常に重要であると認識している。大住中学校においては、来年度からの自転車通学の開始を見据えて実践的な自転車講習会を開催しており、令和8年5月からの自転車通学の施行にあたっては、安全講習を受講した生徒のみに自転車通学を許可するという取り組みをしたいと考えている。交通ルールの遵守についても、講習を通じて徹底していきたい。

### ○日程第2 報告第21号「令和8年度京田辺市立幼稚園・こども園（幼稚園枠）の募集結果について」

#### [説明]

(事務局)

資料に基づいて説明

[質 疑]

(伊東委員)

今年度から給食が実施されているが、募集結果への影響の有無、保護者からの意見等があったのか伺いたい。

(事務局)

近年、公立幼稚園の入園希望者は減少傾向であったが、昨年度から少し下げ止まった感がある。給食の導入効果により、入園を希望する保護者が増えたのではないかと分析している。

(上村委員)

松井ヶ丘幼稚園の3歳児の入園者が0であるが、これは具体的な原因によるものか。また、河原こども園の幼稚園枠における3歳児の入園者が少ないが、これは保育所枠の人気が高いためなのか。

(事務局)

松井ヶ丘幼稚園については、令和9年4月に大住こども園へ統合する前提で募集を行っているため、入園希望者が少ないことが原因の一つと考えている。また、河原こども園については、統合前の田辺東幼稚園への入園希望者が元々少なく、地域の子供の減少が主な原因であると考えている。

(藤井委員)

第2期の再編整備計画における中長期的な見通しとも関わってくるが、今年度における私立園への応募状況について伺いたい。

(事務局)

同志社山手地区のこもれび園については、20名ほどの応募枠に対して応募枠以上の申し込みがあった。また、田辺地区の聖愛幼稚園については、10月が申し込み時期であるため、入園応募者数は集計中である。

(藤井委員)

幼児教育・保育の無償化により、京田辺市の在住者で他市町の私立園に通われる方が今後増えていくと思われるが、傾向について伺いたい。

(事務局)

松井山手の周辺地域については、隣接する八幡市や枚方市の長尾等、位置的に近い場所に私立幼稚園等が立地している。また、私立園は通園バスを京田辺市内の南部地域まで運行させて園児を募集しており、保護者のニーズと合致して一定数の方が通園されている。この傾向は今後も続くと考えている。

(伊東委員)

先日、松井ヶ丘幼稚園を参観し、異年齢の教育をしっかりと取り組みされていたのが印象的であったが、普賢寺幼稚園の18名、松井ヶ丘幼稚園の13名の子どもたちにもしっかりと集団教育を受けさせていただきたい。幼稚園同士での交流等により、子どもたちがなるべく大きな集団の中で過ごしてマンネリとならないよう、工夫をお願いしたい。

(上村委員)

昨日、計画訪問で大住こども園に伺ったが、大住こども園は人気が高く、入園希望者からの問合せが多いと聞いている。松井ヶ丘幼稚園と統合するが、人気の高まりによって待機児童が発生する恐れはないのか。

(事務局)

就学前施設の中には、保護者からの人気がある園と、比較的定員に余裕のある園があるのは事実である。大住こども園については、人口の多い住宅地に近いことから入園希望者が多く、定員が埋まりやすい傾向にあると認識している。

(上村委員)

令和8年度において、今のところ待機児童は出ない見込みと考えてよいか。

(事務局)

幼稚園に関しては若干余裕のある状況ではあるが、9月上旬で申込期間を締め切った際の数字となる。今後の転入者等については、定員に空きがあれば申し込みを受け付けるため、定員が埋まれば待機児童が発生することとなる。

#### [会議の非公開]

日程第3及び日程第4の2件については、教育長が議事の内容を踏まえ、会議を非公開とすることについて提案し、委員全員から同意が得られたため、会議を非公開とすることとなった。

#### ○日程第3 議案第44号「令和7年度京田辺市教育委員会表彰について」

[説明]

(事務局)

資料に基づいて説明

[質疑]

なし

[採決]

原案どおり可決された。

#### ○日程第4 協議「第2期京田辺市立幼稚園・保育所再編整備計画(素案)について」

[説明]

(事務局)

資料に基づいて説明

[質 疑]

(塘委員)

保育所ニーズの変化による待機児童の発生はやむを得ないと考えるが、幼稚園ニーズそのものが下がり、私立園に児童が流出するという状況がある。京田辺市は各地域に保育所・幼稚園を設置してきたが、園児数が少なくなってくると、幼稚園・保育所の統合や私立園と同様に通園バスの導入を検討する必要もあるかと考える。全ての地域に通園バスが必要ではないが、必要な地域に導入することで、離れた地域からでも通えるということも必要ではないか。京田辺市の幼稚園の質、保育の質は他市と比べても非常に高いが、幼稚園ニーズの低下は通園の利便性も影響していると思われる。通園バスの導入について、どの程度検討されているのか伺いたい。

(事務局)

あらゆる手段があるため、今すぐに通園バスを導入することは考えていない。特に保育所枠の場合は距離感を解消できる手段があれば待機児童の解消に繋がると考えるが、現状でも年度途中の入所がしづらいといった状況が、ますます入所しづらくなるという可能性もある。施設の拡充も念頭に置きつつ、いかに保育をしやすい環境を提供していくのかを検討し、その先に通園バスの導入の検討があると考えている。

(藤井委員)

先の質問と関連するが、児童の私立への流出は止まらないと考える。計画では最終的に公立幼稚園が0、北部・中部・南部に公立こども園が3園、その他は私立園となる。若い世代を京田辺市に呼び込むためには、やはり幼少期の子育てサービスの充実が重要であり、若い世代が住みやすいまちづくりという視点で考えると、保幼小の充実は必須である。計画では私立にシフトしていく流れとなっていくが、大局的には市の教育サービスをどの程度私立とのバランスの中で充実させていくのかという方向性が重要。まちづくりに私立も参画させながら、市が主導して大きなまちづくり構想を作っていくような流れであると考えているが、どのように考えておられるか伺いたい。

(事務局)

再編整備により幼稚園が全てなくなるということではなく、京田辺市の北部・中部・南部の各地域のそれぞれの生活圏に基幹園となる幼保連携型の認定こども園を公立で整備していくものとなる。それ以外は現存の民間施設の借用や小学校区ごとに施設を再編し、全園が幼保連携型の認定こども園に移行していく予定としている。集団の規模が維持できない人数まで減少した園、著しく園舎の老朽化が進み、安全が保てない園は再編の中でなくなっていく可能性があるが、基本的には既存施設の活用を念頭に置いており、こども園に移行しながら引き続き今まで培ってきた幼児教育を展開していくことに変わりはない。市内の保育施設は公立と私立とが協力しながら保育サービスを提供してきた経緯があり、

当然幼児教育についても実施している。今後の幼児教育のビジョンは教育委員会と連携しながら検討していくこととなるが、引き続き今までのサービスの質を維持しながら、どう発展させるのかを検討していく必要があると考えている。

(藤井委員)

市民への広報は当然されていくと思うが、公立が幼児教育の根幹を担うという市の使命感、強い思いをきっちりと市民に伝わるような広報をお願いしたい。ホームページで見ただけの内容では、公立が撤退するという誤解を生みかねない懸念があるので、市の幼児教育の構想・理念を簡単に理解でき、市民全体に伝わるような広報に力を入れていただきたい。

(塘委員)

2年程前、同志社女子大学の学生が京田辺市の幼保の魅力という簡単なビデオを作ったことがあった。保護者にとって、幼稚園教育や保育所整備、子どもへの教育とは何かというところがわかりづらいと思うので、視覚的なことも含めて広報していくことが大変重要である。Instagram等も含めて広報を行っていくことが、若い子育て世代にとって必要である。

(伊東委員)

将来的な園区のあり方、北部・中部・南部で拠点を作っていくという方向性は理解できるが、京田辺市の魅力は幼稚園・保育所がそれぞれの小学校区において、幼稚園・保育所と小学校がスムーズに連携しているという仕組みにある。その根幹を変えて欲しくないという思いがあるが、その根幹を維持しながら拠点を3箇所作っていくという中で、草内小学校のみが民間こども園と小学校との連携となる。改めて、中部地域のこども園が民間委託となった理由について、補足説明をお願いしたい。

(事務局)

現在、草内保育所で0歳から5歳までの保育を行っているが、当初計画では草内幼稚園をこども園化し、草内保育所から3歳から5歳の子どもを移して3歳から5歳に特化したこども園を運営する予定としていた。第一期計画を進めていくなかで、1歳と2歳の保育ニーズが高く、この層の受け入れ枠を整備しなければ待機児童に直結するため、小規模保育事業所や乳児保育所を整備し受け入れ枠の拡充に努めてきたが、こども園における3歳の受け皿の段階で詰まってしまうため、計画を見直した。保護者にとっても送迎が2箇所になる等、様々な課題もありいったん見直したうえで、適切な幼児教育・保育を提供していくためにはやはり0歳から5歳が保育できる施設が必要という判断となった。あとは市の財政的事情であるが、就学前施設を整備する際、民間園を整備する場合は、国の支援が手厚く、市の費用負担は少なくて済む。一方、公立園を整備すると、ほぼ市が費用を負担しなければならなくなる。保育サービスを提供していくうえで、サービスの質を維持する、あるいはそれ以上のサービスを提供したいという思いはあるので、適切な運営事業所を選択し、草内保育所や草内幼稚園に通っ

ておられる児童の保護者の方には、それぞれ説明会を開き、適切に情報を発信しながら事業を進めていきたいと考えている。

(伊東委員)

整備費用に対する国の補助割合の違い等がよくわかり、民間委託を選択された理由が理解できた。今後、他の幼稚園や保育所の統廃合の過程でも同様のパターンが考えられるが、京田辺市の幼保小連携された教育のシステムを変化させることなく、継承していただきたい。

(藤井委員)

資料P. 19に記載のとおり、「こども誰でも通園制度(乳児等通園支援事業)」が始まるが、これがプラスアルファの魅力づくりになると考える。資料P. 21における記載が少ないため、もう少し市民に見えるような計画を記載していただけないか。

(事務局)

こども誰でも通園制度は令和8年4月から全国の自治体での実施が義務づけられており、本市でも準備を進めている。制度の実施主体は市町村であるが、民間園でも実施できる。ただし、京田辺市はどの施設も定員に余裕がない状況であり、こども誰でも通園制度でどれだけの子どもの受け入れができるのかは難しいところがあるが、現在民間園と連携し、体制を整備している状況である。

(教育長)

資料P. 27の再編整備計画チャートについて、一番右側の実線の枠と破線の枠が市民にどう受け取られるのかという疑問がある。例えば、田辺幼稚園の矢印は破線、一番右の「こども園」も破線になっている。これをいずれこども園になると受け取られるのか、あるいは閉園すると受け取られるのかという疑問がある。例えば、田辺幼稚園については、資料P. 22で休園すると記載され、薪幼稚園は認定こども園へ移行すると記載されている。同様に、普賢寺幼稚園についても資料P. 26で将来的には認定こども園に移行するとの記載がある。資料中の記載とチャートの一番右側の最終イメージを整合させると、破線で残るのは田辺幼稚園だけとなる。そのような視点で見ると、形は変わるが園として存続し、京田辺市は幼児教育・保育について今後もしっかり力を入れていくという見え方となる。チャートについては、再考をお願いしたい。

(塘委員)

施設面についてはしっかりと説明があったが、より大切なのは保育者の雇用である。保育者がいなければ保育ニーズを満たせないなので、保育者の雇用について京田辺市としてどのように考えているのか。どこの市でも保育者は取り合いになっており、いかに良い学生を確保するのが重要。学生に京田辺市の保育を魅力的に伝える等の計画があれば伺いたい。

(事務局)

人材の確保は難しい問題であり、数や質を含め様々な課題があり、養成学校に通っている学生が、最終的には企業に就職するという事例がある。本市内の就学前施設のPRのため大学を訪問するような中長期的な取り組みで京田辺市の保育施設を知ってもらいつつ、保育の仕事は伝承による部分が大きいことから、毎年の継続的な採用が必要であると考えている。大学がある市というメリットを今後の活動にも生かしていきたい。

(塘委員)

保育士養成校の学生が企業に就職するのは、ある程度仕方のないところもあるが、他の市ではなく京田辺市に来て欲しいというアピールが必要。学生が将来の職場をイメージできるよう、職場訪問も含めて実際に働いたり、訪問したりして保育所や幼稚園の魅力を感じられるようなフェア等の実施も良いと考える。様々なフェアが行われているが、学生には実際に職場に行つてその場を見たいというニーズがある。職場を広く知ることができるフェアを実施していただくと、同志社女子大学の保育士養成課程で学ぶ学生にとって京田辺市が就職先の選択肢に入ってくるのではと考える。

(事務局)

人材確保については民間園でも同様に悩んでおられるが、実際に市内の施設見学に来てもらいたいという声もある。引き続き大学等の協力も得ながら、受入体制も整備しつつ、フェア等の実施に向けて関係機関等との調整を進めていきたい。

(藤井委員)

京都府においては、教師力養成講座の実施や大学のカリキュラムの一環としてのインターンシップが必須になってきていることなど、大学在学中の早い段階から大学の単位修得制度、ボランティア等と連携させながら経験を積んでいただくことで、採用率の向上につながっている。京田辺市としても、学生を呼び込むような仕組みを作っただけだと良いが、運営スタッフの確保が難しい。京都府では教育委員会の人事部門に複数の職員がいるため、全国の大学訪問を実施したりもできるが、市町村の規模では人員の余裕がない。難しい問題ではあるが、京田辺市と学生にとってお互いにプラスになるような関係づくりができれば採用計画の見通しも明るくなるため、ぜひ検討をお願いしたい。

(塘委員)

同志社女子大学から相当数の学習支援ボランティアを派遣しているが、現在の制度ではボランティアに申し込んでからすぐに活動できない場合がある。学生が希望すればすぐに現場に入れるような仕組みづくりをお願いしたい。今までにも幼稚園や小学校への派遣実績があり、仕組みを整えていただければ大学からも学生を明確にプッシュできるため、ぜひ検討をお願いしたい。

(教育長)

各委員から出された意見をもとに、事務局において検討をお願いしたい。

(事務局)

今後の再編整備計画策定のスケジュールに関する補足説明となるが、本日の審議内容に基づき計画素案を修正し、今後関係会議に諮ることとしている。その後、令和7年12月の市議会常任委員協議会で報告し、12月にパブリックコメントを実施する予定としている。パブリックコメントでの意見を反映したものについて、改めて令和8年1月以降に教育委員会での審議をお願いしたい。

#### **[会議を非公開とすることの終了宣言]**

非公開事件の議事日程が終了したため、教育長が、会議を非公開とすることの終了を宣言した。

#### **○閉会宣言**

教育長が閉会の宣言をした。